CSRへの取り組み

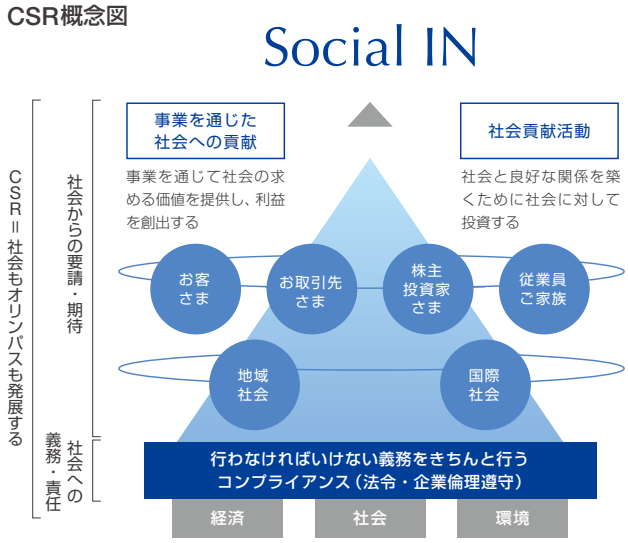
オリンパスグループのCSR活動は、社会からの要請・期待に応え、その義務・責任を果たすことです。

お客さまやお取引先さま、株主・投資家の皆さま、従業員やそのご家族、さらには地域社会*や国際社会*といったステークホルダー（企業活動を行う上で関わる人や組織）との対話を通じ、責任を果たすことによって初めて、オリンパスという企業の存続が認められ、「人々の健康と幸せな生活の実現」に貢献できると考えています。

* 地域社会、国際社会には市民の皆さま、NGO／NPOの皆さま、政府・行政機関・国際機関等を含みます。

WEB CSRの取り組みの詳細については以下をご覧ください。
http://www.olympus.co.jp/jp/csr/

CSR概念図



経営理念「Social IN」を実現するために

オリンパスでは経営理念「Social IN」の実現に向け、グループ全員の行動の拠り所としてオリンパスグループ企業行動憲章を策定するとともに、CSR関連の各種方針を策定し、グループ内に徹底しています。

オリンパスグループ企業行動憲章

オリンパスは、「Social IN」という経営理念のもと、企業も社会の一員であることを強く認識し、
世界中の多様な価値観をもつ人々に必要とされる存在として、
人々の健康と幸せな生活を実現するために、常に社会の求める価値を提供し続けます。
オリンパスは、法令遵守はもとより、高い倫理観をもち、
全ての経営陣および社員一人ひとりが「何が正しいか」を考え、責任ある行動をとることができるように、
ここに企業行動憲章を改定し、グローバルな企業活動において遵守することを誓います。

INtegrity 社会に誠実

1 高い倫理観

私たちオリンパスグループは、いかなる場面においても、コンプライアンス精神を徹底し、法令、社会規範、および社内規則に反する行為を容認しません。
コンプライアンス上の懸念を看過しない組織環境を整え、全ての関係者に対しそのコンプライアンス教育を行います。

また、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底いたします。

2 人権尊重

私たちオリンパスグループは、国際的に認められた人権を尊重し、あらゆる企業活動において、人種、信条、性別、年齢、社会的身分、門地、国籍、民族、宗教または障がいの有無等の理由による差別や、強制労働、児童労働を排除します。

INnovation 価値の創造

3 革新的価値の提供

私たちオリンパスグループは、「人々の健康と幸せな生活」を実現するため、革新的な価値を提供し続けます。このために、お客さまから「心から使いたい」と思っていただける真に求める価値は何かを常に探求し、お客さま情報の保護に十分配慮して、社会にとって有用で、安全かつ高品質な製品やサービスを提供します。

4 活力ある職場環境

私たちオリンパスグループは、社員の安全と健康に配慮するとともに、個性や多様性を尊重し個人の成長を促す職場風土を提供し、社員一人ひとりは、知識の習得や技術の向上に努め、社会の求める革新的な価値を提供します。

そのために、経営の透明性を高め、不利益な情報も含めて隠さず共有し、自由闊達な職場環境を目指します。

INvolvement 社会との融合

5 環境との調和

私たちオリンパスグループは、人々の安全・健康とそれを支える自然のいとなみを尊重し、環境に調和する技術の開発と製品ライフサイクルすべての事業活動を通して、持続的発展が可能な社会と健全な環境の実現に貢献します。

6 社会への貢献

私たちオリンパスグループは、自らの判断・行動がステークホルダーや社会に与える影響に注意を払い、お客さま、お取引先、株主、社員、地域住民をはじめとしたステークホルダーの意見を積極的に聞く姿勢を持ち、その声に真摯に対応します。

また、企業活動を行う国や地域の文化や慣習を尊重し、地域社会と協調して、その発展と向上に貢献します。

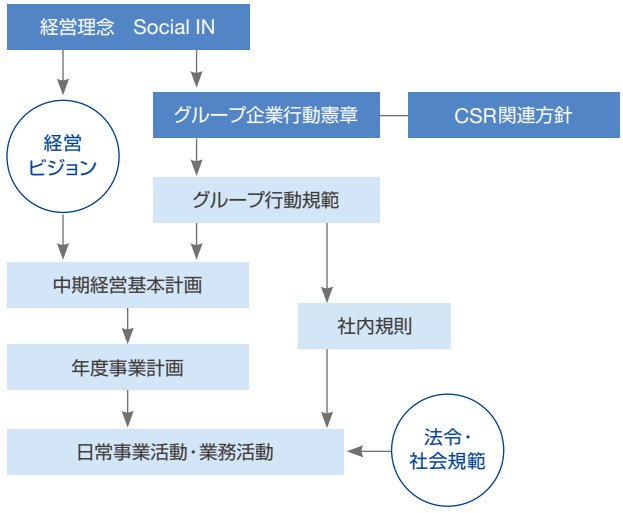
* オリンパスグループ企業行動憲章は、ISO26000、国連グローバル・コンパクト10原則、OECD多国籍企業行動指針2011等、最新の国際的なガイドラインで求められる社会的責任の原則を反映し策定しています。

WEB オリンパスグループ行動規範：http://www.olympus.co.jp/jp/csr/olycsr/socialin/principle/policy.jsp

企業行動憲章とCSR関連方針とのつながり

オリンパスグループ企業行動憲章		CSR関連の方針
INtegrity 社会に誠実	1 高い倫理観 2 人権尊重	• 情報開示方針 • 情報セキュリティ方針 • リスクマネジメント および危機対応方針 • 調達方針 • 個人情報保護方針 • 人権と労働に関する方針
INnovation 価値の創造	3 革新的価値の提供 4 活力ある職場環境	• 品質方針 • 個人情報保護方針 • 人権と労働に関する方針
INvolvement 社会との融合	5 環境との調和 6 社会への貢献	• 環境方針 • 社会貢献方針

経営理念と日常活動の関係



CSR委員会の設置

経営理念である「Social IN」の実現を目指し、CSRをさらに強化するため、CSR委員会を設置しています。CSR責任者である社長の意思決定を補佐し、決定事項の推進・進捗管理を行うことで、オリンパスグループにおけるCSRの浸透と定着を図ります。

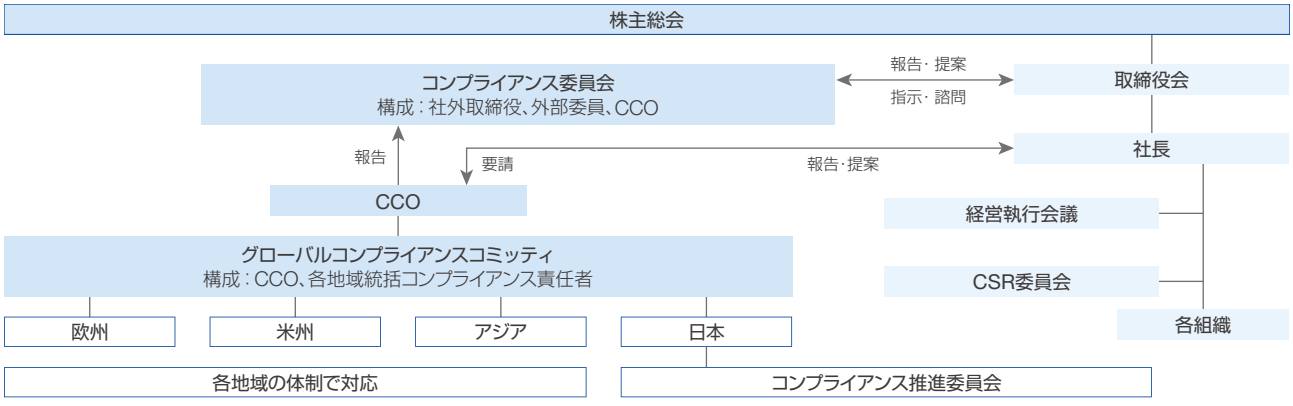
また、CSR委員会の傘下に各種の推進委員会を設け、CSR委員会と連携しつつ、それぞれの機能に即した施策の検討や計画化、推進に取り組みます。

コンプライアンス推進体制

コンプライアンスの責任を明確にすべく、グローバルの統括責任者としてチーフコンプライアンスオフィサー（CCO）を任命しています。

取締役会の諮問機関として、社外取締役、外部委員およびCCOで構成されたコンプライアンス委員会を設置し、また、グローバルでコンプライアンスに関わる方針や施策の展開、統括地域の状況や課題の把握、必要な是正措置の実施を目的に、各地域統括のコンプライアンス責任者で構成されたグローバルコンプライアンスコミッティを組織しています。これらを原則四半期ごと開催／連携することで、コンプライアンスの強化に努めています。

コンプライアンス推進体制図



INtegrity 1 高い倫理観 2 人権尊重

グローバル企業としてのコンプライアンスを徹底。社会からの要請・期待に応え、「社会に誠実」であることを目指します

オリンパスグループが掲げる経営理念「Social IN」を構成する3つのINの一つが「INtegrity」（社会に誠実）です。「INtegrity」は、2012年4月にスタートした新経営体制のもと、企業行動憲章・行動規範の見直しを行う中で新たに掲げた言葉であり、当社はあらためてこの言葉の重要性を認識し、会社のありかたを考える上で、たいへん重要なものだと考えています。そして「INtegrity」の具体的な現れとして、とりわけ重要な事項がコンプライアンスです。当社では、コンプライアンスの強化を最優先課題の一つとして取り組みを進めています。

WEB 社会に誠実・人権尊重（INtegrity）：http://www.olympus.co.jp/jp/csr/integrity/

執行役員
チーフコンプライアンスオフィサー（CCO）
北村 正仁

グローバルでのコンプライアンス推進と取り組み

2012年5月に、その前身となる「グローバルコンプライアンスミーティング」を開催して以降、2015年6月までに計14回の「グローバルコンプライアンスコミッティ」を開催しました。ここで指示・確認された方針や施策は各地域の体制に応じて展開され、各地域統括の責任のもとで、コンプライアンスの取り組みを推進しています。

各地域での取り組み

欧州

欧州ならびに中東、アフリカを含む担当地域は多様な文化と言語を含む地域であり、地域ごとに要求される法的要件も異なります。統一されたコンプライアンス管理体制を確立するため、地域ごとのコンプライアンス専任マネジャーの任命や、ITインフラへの大幅な投資等を行って、マトリックス形式の管理手法を導入しています。

Olympus Europa SE & Co. KG
ジョン・ロウ

米州

これまで、オリンパスグループの各社が協力しあい、より統一された誠実な企業文化を世界中で構築してきました。ガバナンス、コミュニケーション、ビジネス手法、管理プロセスで、数々の前向きの変革がありました。グローバル規模で、社会に対して誠実であることを貫き、従業員、投資家、社会全体にとって有益なことを拡大してきました。

Olympus Corporation of the Americas
ケビン・J・ディル

アジア

アジア・オセアニア地域でのコンプライアンス活動は、お客さまに向けた強力なメッセージとなり、卓越した品質の追求をめざす行動につながっています。その実現に向け、新しいコンプライアンス体制のもと、新しい規則、方針、ガイドラインを導入できるよう注力してきました。事業が急速に拡大する地域だけに、今後も継続して強化していきます。

Olympus Corporation of Asia Pacific Limited
高木 昇

日本

各地域が共通の仕組みでコンプライアンスが維持・改善されるよう、GCMS（グローバルコンプライアンスマネジメントシステム）とPDCAプロセスの構築を進めてきました。セルフアセスメントやモニタリングの結果からも改善が確認されています。また、国内ではコンプライアンス推進委員会を通じ、着実にレベル向上を図ってきました。

オリンパス株式会社
田中 政司

INnovation 3 革新的価値の提供 4 活力ある職場環境

社会に貢献するオリンパス製品を支える製造現場での人材育成

胃や大腸等の検査や治療に使われる内視鏡、最先端の科学研究に欠かせない生物顕微鏡、写真を通じて人々の生活に潤いを生むデジタルカメラ等、オリンパスは、医療、科学、映像の3つの事業で製品を通じて社会に貢献しています。

その製品を生み出すのが、オリンパスならではの高度なものづくり技術、さらにはそれを支える人材です。

WEB 価値の創造・活力ある職場（INnovation）：http://www.olympus.co.jp/jp/csr/innovation/

オリンパスのものづくりの特徴

オリンパスのものづくりには、「微小高精度」と「多種少量」という特徴があります。例えば、内視鏡にはマイクロメートル単位の精度で加工することが求められる微小な部品が使われています。そのような高精度の部品を安定して加工する技術がオリンパスの小型で精密な製品を実現しています。

また、組み合わせやバリエーションにより製品数が多く、年間生産が数台という製品も少なくない等、多種少量の生産です。

このような「微小高精度」「多種少量」のものづくりを支えているのが高度なものづくり技能を持つ技能者です。

ものづくり人材育成制度

オリンパスでは、製造現場の技能者を付加価値を生み出す重要な源泉と考えており、その技能レベルを6段階に区分し計画的にレベルアップを図っています。レベル1の新入社員からレベル3までを一般技能者、レベル4以上を高い技術技能を持つ「高度技能者」と認定しています。

レベル4を「Manufacturing Advisor（MA）」、レベル5を「Manufacturing Supervisor（MS）」、そして、最高位のレベル6を「Manufacturing Master（MM）」と称しています。新入社員からMMに至るまで、レベルに応じた育成を計画的に行っています。

取り組み事例

事例1

各工場における技能習得・育成を推進する「技能道場」

各工場では、技能者レベルを基本に、それぞれの工場で必要に応じた育成研修を企画・立案します。この中で各職場の技能に特化した育成研修を行うのが各工場の「技能道場」です。技能道場は、職場ごとに高度技能者が「道場主」や「師範・師範代」を務め、マンツーマンで技能を継承する“場”です。ここでの個人技能のレベルアップが各職場の技能レベル維持向上につながっています。

事例2

「一般技能者」から「高度技能者」を目指して

高度技能者は、自己の技能の研鑽のみならず、ものづくりに対する幅広く深い知識が求められます。新製品の立上げや生産試作での工程設計等の未知の難しい業務に対応する能力が必要とされます。加えて、習得技能を確実に次世代に伝承する後進育成の役割も担うため、高いコミュニケーション能力や指導力も求められます。

オリンパスはこのような高度技能者を、①社内外の資格取得、②全社技能競技大会や国の「技能グランプリ」への挑戦、③社外での指導等を通じて育成しています。

INvolvement 5 環境との調和 6 社会への貢献

世界各地における医療啓発活動

世界の人々の心と体を思いやる医療環境の実現に貢献し続けることがオリンパスの医療事業のミッションです。オリンパスはがんの早期発見や患者さんの身体への負担の少ない低侵襲治療に役立つ機器の開発・提供だけではなく、市民の皆さまのがん検診や予防への意識向上に向けた活動等、さまざまな健康啓発への取り組みを世界各地で展開しています。

WEB 社会貢献方針と活動：http://www.olympus.co.jp/jp/csr/involvement/contribution/

各国の取り組み

欧州

「Felix Burda Foundation」のメディアキャンペーン

欧州各国では、それぞれの地域で様々な取り組みを行っています。Olympus Europa SE & Co. KGでは、大腸がん予防に特化した地元ドイツの基金Felix Burda Foundationが毎年3月に実施している大腸がん予防のためのメディアキャンペーンを支援しています。

Olympus KeyMedでは、15年以上にわたって、地元英国の大腸がん啓発の慈善団体「Beating Bowel Cancer」を資金や物品面で支援しています。2015年3月期は、団体の大腸がんに関する48,000枚のリーフレットと17,000枚のポスターの作成を支援しました。

中国

オリンパス健康公益サロン

Olympus (China) Co.,Ltd.では、2008年から「胃腸健康啓発活動」として、さまざまなイベント・情報発信を通じた胃腸の健康に関する啓発活動を続けています。

例えば、「オリンパス健康公益サロン」は、中国の消化器内科の医師を講師に招き、45～60歳の中高年層を対象に中国各地で講演会を開き、胃腸の検診を定期的に受けるように呼び掛けています。2015年3月期は、広州、南京、大連、成都等、9都市で開催し、合計で約1,000人が参加しました。

米国

「大腸がん啓発月間」活動

Olympus Corporation of the Americasでは、毎年3月を「大腸がん啓発月間」と定め、さまざまな啓発活動を展開しています。従業員やその家族、友人、地域コミュニティへの啓発をしているほか、従業員と共同で非営利団体「Colon Cancer Coalition」等に募金をしています。2015年3月期は計21,348米ドルを集めました。

日本

大腸がん検診啓発小冊子

日本では、特定非営利活動法人（NPO）ブレイブサークル運営委員会のオフィシャルサポーターとして同委員会が展開する「ブレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」を積極的に支援しています。2015年3月期、ブレイブサークル運営委員会は、およそ1,000の都道府県・市区町村への大腸がん検診・精密検査普及啓発小冊子の提供のほか、210の都道府県・市町村・団体へ「大腸がんクイズラリー」の運営資材、ノウハウを提供し、一般市民の対象者の方々へ大腸がん検診・精密検査受診の大切さを伝えました。

環境への取り組み

環境経営の推進

オリンパスグループ環境方針のもと、持続的発展が可能な社会と健全な環境の実現に向け、環境マネジメントシステムを確立し、環境負荷低減を図っています。

WEB 環境経営の推進：http://www.olympus.co.jp/jp/csr/involvement/management/

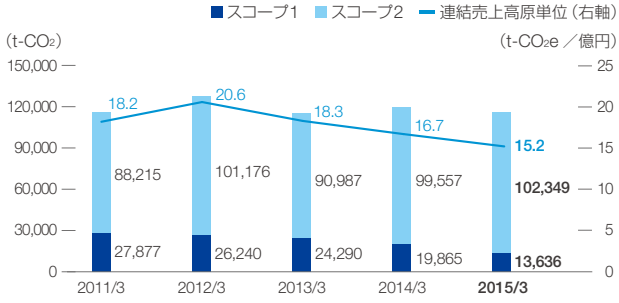
事業活動における取り組み

• CO_2排出量の削減

2015年3月期のCO_2排出量は、前期比で3％削減

エネルギー消費の大部分を占める電力では、日常的な省エネ活動や自然エネルギーの導入、省エネルギー・省資源型の製造技術の開発等、ものづくりにおける環境改善活動を推進しています。

製造拠点のCO_2排出量の推移 *1、2



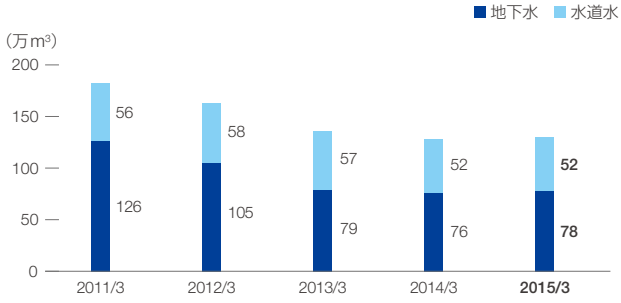
*1 対象範囲：オリンパスグループの国内および海外の法人。ただし、小規模法人を除く。
*2 GHGプロトコルによる以下の区分で報告しています。
スコープ1：直接化石燃料の使用により発生する温室効果ガス排出量
スコープ2：電気の購入など二次利用による温室効果ガス排出量

• 水資源の保全

2015年3月期の水資源使用量は前期比で2％増加

オリンパスは部品洗浄で水を使用しています。水使用を削減する製造方法の開発、設備点検を通じた漏水対策のほか、排水処理設備の維持・管理、排水の水質管理等、環境影響の最小化にも努めています。

水使用量の推移

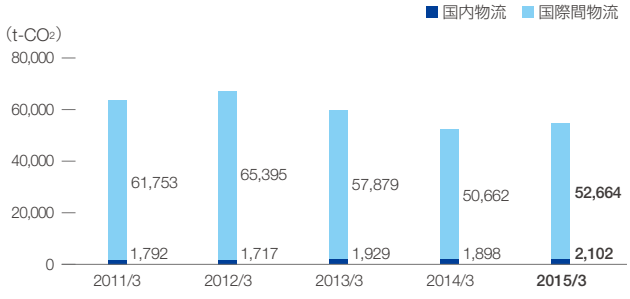


• 物流での取り組み

2015年3月期の物流CO_2排出量は前期比で4％増加

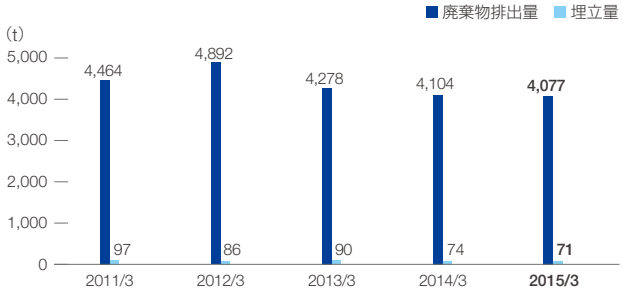
製品・包装の軽量化による輸送重量の削減や輸送効率の向上、CO_2排出量の少ない輸送手段に転換するモーダルシフトの拡大に取り組み、物流によるCO_2排出量の削減を進めています。

輸送におけるCO_2排出量の推移



• 資源の有効活用

2015年3月期の廃棄物排出量は前期比で1％削減

廃棄物の埋立の削減やリサイクル率の向上、加工ロスの削減、廃材を少なくする設計を行う等、「資源生産性の高いものづくり」を進めています。

廃棄物排出量の推移